

1 ねらい

筆者の考えの進め方や説明のしかたの工夫をとらえることができる。【読】

2 学習の流れ

時間	主な学習活動	教師の支援
4分	1 本時のめあてを確かめる。	・前時の学習を想起し、本時のめあてにつなげる。
	筆者は、どんな考えの進め方や書き方の工夫をしているか探ろう。	
8分	2 「はじめ」と「終わり」の役割を考える。	・「はじめ」～生き物→多様→共通性→円柱形と枠組みを絞りながら考えを述べていることを押さえる。 ・「終わり」～生き物の多様性を認めた上で、その中から共通性を見だし「なぜか」を考えることを「実におもしろい」とする筆者の考え方を押さえる。
10分	3 「中」の前半(②～⑤)の筆者の考えの進め方や書き方の工夫について考える。	・④段落で敢えて例外にふれ、⑤段落でそれに答えることで説得力を強めていることに気付かせる。 ・反論を予想し、例外と思われることを敢えて書くという進め方に注目させる。
10分	4 「中」の後半(⑥～⑩)の筆者の考えの進め方や書き方の工夫について考える。	・⑥で自分の考えを仮定とし、⑦～⑩で2つのよさを挙げることによって読み手が納得するようにしていることに気付かせる。 ・仮定→よさ という手順で、仮定の正しさを証明していく進め方に注目させる。
10分	5 筆者の考えの進め方や、説明のしかたの工夫について考えたことをまとめる。	・3, 4で気付いたことをもとにして書かせる。 ・なぜ、そのような考えの進め方をしたのか、説明のしかたをしたのか考えさせる。
3分	6 学習をふり返り、次時の見通しをもつ。	・次時の学習内容を予告する。

3 評価

筆者の考えの進め方や説明のしかたの工夫をとらえている。(ノート・発言)